

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### スズメバチって本当にこわい？

太田 慶子（千葉市）

日 時：2010年9月5日（日）10:30～12:00 天候：晴時々曇り 気温：33°C

参加者：24名（大人19名、子ども5名）

担当指導員：太田慶子・芳我めぐみ



猛暑続きの中、きっと参加者は少ないだろうと思っていたが、まあまあの人数となった。暑いので、日陰で（熱中症にならないよう飲料を隨時取るようにと言いつながら）用意したイラストつきの説明用紙を見せて、「どうしてスズメバチは人を襲うのか」などについて話す。

スズメバチの被害が出るのは、ちょうど女王バチと働きバチが生まれる8月ごろから10月頃までで、巣で子育てしているハチが、そばに近づいて来た人間を、「自分たちの大好きな子どもに危害を加える敵！」と見なして襲う。人間は「スズメバチをこわい！」と思っているが、ハチの方は巣のそばにやって来る生き物から襲われないかと思っているのだ。ハチはいきなり刺すのではなく、大声と足音を立てながらやつてくる人間に、まずカチカチと音を立てて人間を威嚇している（イエローカード）のだが、話に夢中の人間は気づかず、そのまま巣に近づいて襲われることになる！特に、スズメバチはクマに襲われることが多かったせいか、黒いものを攻撃する。実際、大草でも昨年子ども達の間にいた長髪の黒いTシャツを着たがっしりした男性が背中を刺された。だから、自然豊かな森に入る時は、スズメバチなどがないことを頭に入れて、黒っぽい物は身につけず、用心することが必要で、事前にそういったことを学んでおけば、襲われそうなときも、「静かに、できるだけ動きを見せないように、そっと逃げるようにする」ことができる。もし襲われたら、まずは水で毒を流し、冷やすこと。体質によってはアナフィラキーショックになる場合もあるので（30分から1時間以内で死亡する場合がある）医者に行くことも必要だ。いずれにせよ、刺されたら長く続く痛みと腫れで苦しむことにはなる。スズメバチは本当にコワイ！

けれど、調査をしているとき、スズメバチが肉団子を作っているのをじっと何スズメバチだろと眺めたりするが、特にこわい！とは思わない。それは、そばに巣がないことがわかっているから。

説明のあと、スズメバチ4種類（オオスズメバチ～女王と働きバチ～、ヒメスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチ、～小さなクロスズメバチは手に入らず）と、先日通り道にあって千葉市が取り除いたヒメスズメバチの巣の実物などを見せる。同じハチでも女王バチは大きく、働きバチは3分の2くらいしかない。民家の軒下に大きな巣を作るのはキイロスズメバチが多いが、戸袋などの閉鎖空間にはヒメスズメバチ（アシナガバチの幼虫や蛹を狩る）なども作る。

説明が長引いたので、森にいたのは1時間ほどになり、主に出会った虫の観察をしながら歩く。谷津田には黄色いツマグロヒヨウモンとキアゲハが多く、太ったナガコガネグモが目立った。途中、猛暑ゆえか、湿地で吸水するヒメスズメバチとキイロスズメバチが見られたが、数は少なかった。黒っぽいハチの体はいかにも暑さに弱そうだ。

最後に参加者の感想を聞いたとき、実際に「自宅にスズメバチの巣があって、どうしようかと思って大草の観察会に参加した」と言われたが、この観察会が役に立ったかどうか…。

